

会山行報告

報告・後藤隆徳

山行NO 会山行N0・202A  
 日時 01・02・24(土)～25(日)  
 山行名 登山とスキーに温泉とにごり酒  
 山名 御岳山(3067m)  
 標高差 駒ヶ岳スキー場約1580～標高約2600＝約1020m  
 時間 出発5:00-ゲレンデ上7:00-2600m8:30-:ゲレンデ下10:15

参加者 CL後藤隆徳(53)、加藤秀子(51)、大石好友(29)、  
 山スキーの会＝長岡浩一(41)、植松久美子(43)

2/24(土) 雨 朝先発の長岡、植松、大石が出発。加藤仕事のため後藤と午後後発。後発隊は途中いつもの店で食料と「にごり酒」をゲット。先発隊とは木曾温泉前で合流。テン場に苦労したが結局スキー場の駐車場に幕営。テントは毛布も敷かれ温かく賑やかに盛り上がった。

2/25(日) 吹雪 起床した時は星も見えたがやがて激しい降雪になる。昨日は温かくゲレンデも雨が降ったが今日は一転強い冬型になった。ヘッドランプを揺らしゲレンデを登る。ゲレンデは昨日の雨でガリガリのアイスバーン。急な壁2ヶ所は苦労した。ヘタをすると本当に滑落してしまう。植松が遅れた。丁度2時間でゲレンデ上に立った。早くもゲレンデの若い係員がリフトの動輪の上で雪下ろしをしている。

右手からシラビソの森に入る。御岳は4回目だが今年は雪が多いので歩行が楽だ。森を抜けるとダケカンバが現れる。次第に風が強まりガスも去来する。所々アイスバーンで注意。本格的冬山が初めての大石が苦労する。彼は今回登山靴でボードに挑む。植松からゲレンデ上からどうするか無線が入る。トレースを辿るように伝える。

ハイマツが現れると増々風雪が強まる。そしてここも昨日の雨でガリガリのアイスバーンが続いている。しかもこの上の壁の雪が落ちてしまい草付が出ている。残念だがここまでとする。2600mだった。植松に無線で下ることを伝える。

滑降に移る。バーンを慎重にこなして左に横断して尾根に出る。ハードな滑りに大石が苦労している。ボードは横断も弱い。長岡が付き添ってくれる。カンバ林を快適に滑りシラビソの森に入る。右に左にミズスマシの様に巧みに下る。長岡も加藤も中々。ゲレンデに出ればアッという間に下に着く。高速バーンでスピードが出過ぎ危ない。鹿ノ瀬は「とろとろの湯」でいつも気持ちいい。

反省

- ① 植松の無線の周波が変わってしまい連絡が出来ず一時行方不明?。周波数は常にチェックしたい。携帯電話も持ったほうが良かった。
- ② 悪天候時は竹、赤布が必要。

# 御岳山のおもいで

大石好友

この冬、初参加の冬山登山、不安で一杯でした。

前日からなかなか寝れずに朝を迎えた。我々先発隊はお昼におんたけ ski 場に到着。今日はテント泊？なんと 18 年ぶりの出来事。みんなと酒を酌み交わす、話題はもちろん山の話。21 時に寝るしただが風の音で寝れず起床時間を迎える。手早く支度をしていざ出発！私はとんでもないヘマを打ってしまう。なんとヘッドランプを落としてしまい紛失。暗闇の中てくてくと歩くはめにはじめて闇のゲレンデを歩くなにか薄気味悪い私 1 人がアイゼン歩行！でもなんだか雪が食い込む感触がなかなか楽しいねとおもいながら登山を楽しんだ。約 2 時間でゲレンデの最高部に到着。ここからはスノーシューで登頂これから樹林帯を駆けめぐると、酸素が薄いと感じ始める。足もだんだん痛くなるが、前に進まなくては！風が私を襲う身に付けてるものが凍り始める。ザックの中の水が凍りはじめ。やはりスキー隊の皆様にはかなわない。地吹雪で前が見えない、会長たちの姿が見えない。次に見えたらもう下る準備をし始めてる。烈風の中の作業はつらい、いよいよ滑りである。でもいきなりアイスバーンである。沢の中を滑るが途中で樹林帯に戻る為トラバースしようと思うが新雪に足をとられ上がれなくなってしまい、滑落の恐怖で足がブルッタ本当に怖かった。でもなんとか生きて下山できた事に感謝の気持ちで一杯です。山スキーはゲレンデの延長だと思っていたが、大間違いであった。ものすごく奥が深い物であった。いろいろ反省点の多い山行でありました。



3/24  
焼岳の  
大石君